

## 高大接続特別部会での主な意見と教育再生実行会議第四次提言の内容

項目	これまでの高大接続特別部会での主な意見	教育再生実行会議第四次提言
高等学校から大学までを通じて育成すべき力	<p>知識にとどまらない汎用的能力の育成が必要。</p> <p>大学教育における社会で求められる能力の育成の前提として、大学入学者選抜においては汎用的能力を測定することが必要。</p>	<p>これからの世界や日本を担う人材の育成に当たっては、夢を持ち、それを強い志に高め、実現に導く情熱や力、社会に貢献し責任を果たす規範意識や使命感が必要であり、幅広い教養と日本人としてのアイデンティティ、語学力や交渉力、多様な人と協働する力を含めたコミュニケーション能力、課題発見・探究・解決能力、リーダーシップ、優しさや思いやりといった豊かな感性などを培うことが重要です。</p>

項目	これまでの高大接続特別部会での主な意見	教育再生実行会議第四次提言
高校教育、 大学入学者 選抜、大学 教育それぞ れの関係と 役割分担	<div data-bbox="360 209 1151 344" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>高等学校における学習到達度や大学教育に必要な能力・適性の判定等、大学入学者選抜が担うべき機能について整理することが必要。</p> </div> <div data-bbox="360 384 1151 520" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>高校教育との円滑な接続のため、大学入学者選抜においては、高校教育の成果の確認と、大学教育に必要な能力・適性等の判定の2つの視点のバランスをとることが必要。</p> </div> <div data-bbox="360 560 1151 663" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大学入学者選抜は各大学が置かれている状況に応じ、従来の選抜機能のほか、教育・学習支援機能が求められている。</p> </div> <div data-bbox="360 703 1151 807" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>高等学校における学習の早期分化の是正の観点から、募集単位の大きくり化を進めることが必要。</p> </div>	<div data-bbox="1196 209 2051 472" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大学入学者選抜は、本来、高等学校教育を基盤として、各大学のアドミッションポリシー(入学者受入方針)の下、能力・意欲・適性を見極め、大学での教育に円滑につなげていくことが求められます。このため、大学入試の仕組みの改善のみを問題にするのではなく、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の在り方について、一体的な改革を行う必要があります。</p> </div>

項目	これまでの高大接続特別部会での主な意見	教育再生実行会議第四次提言
<p>高校教育の 質の確保・ 向上</p>	<p>これまで大学入学者選抜が高校生の学習意欲の喚起、幅広い学びの確保、学力の状況の把握の機能を多く担っていたが、これらの機能については高校教育がしっかり担っていくことが必要。</p> <p>高校段階の学力状況の客観的な把握の仕組みの検討を含めた高校教育の質の確保・向上の取組の充実が必要。</p> <p>「高等学校学習到達度テスト(仮称)」(※)は、就職試験や推薦・AO入試等に活用される仕組みとすることが必要。 (※)初等中等教育分科会高等学校部会の審議経過報告(平成25年1月)において、全国規模での導入の検討が求められている、高校生として共通に求められる基礎的・基本的な知識・技能や思考力・表現力・判断力等の学習到達度を把握する希望参加型のテスト。</p> <p>高校教育の質の確保・向上の取組により高校段階で教科の到達度を評価した上で、大学入学者選抜においては活用力や意欲を重視することが必要。</p>	<p>国は、基礎的・共通的な学習の達成度を客観的に把握し、各学校における指導改善や生徒の学習改善に活かすための新たな試験の仕組み(達成度テスト(基礎レベル)(仮称))を創設する。同テストは、高等学校教育の質の確保・向上を目的として、高等学校の教育課程における基礎的・共通的な教科・科目について、生徒の多様な状況に応じ、高等学校在学中に複数回受験できる仕組みとすることを検討する。</p> <p>達成度テスト(基礎レベル)(仮称)の試験内容は、基礎的・共通的な教科・科目の学習達成度について、知識・技能だけでなく、その活用力、思考力・判断力・表現力等を含めた幅広い学力を把握・検証できるものとする。同テストは、高等学校の単位及び卒業の認定や大学入学資格のための条件とはしないが、できるだけ多くの生徒が受験し、結果を学校や生徒に示すことにより、学校における指導改善や、生徒の学習意欲の喚起及び学習改善につなげる。民間の検定や各種試験との相互補完により、生徒の学習習慣の定着</p> <p>以上の方針の下、達成度テスト(基礎レベル)(仮称)の具体的な実施方法(教科・科目や出題内容等)や実施体制、実施時期、名称、制度面・財政面の整備等について、高等学校における教育活動に配慮しつつ、関係者の意見も踏まえ、中央教育審議会等において専門的・実務的に検討されることを期待する。</p> <p>国及び地方公共団体は、ジュニアマイスター顕彰制度や職業分野の資格等も活用し、生徒の多面的な学習成果の評価の仕組みを充実し、生徒が進学や就職にも活用できるようにする。</p> <p>学校は、教育活動の質を向上させていくため、自らの教育活動の成果等を不断に検証する学校評価を通じて、学校運営の組織的・継続的な改善を図るとともに、積極的な情報発信を行う。</p>

項目	これまでの高大接続特別部会での主な意見	教育再生実行会議第四次提言
大学入試センター試験の改善	<p data-bbox="353 180 1151 304">細分化した出題教科・科目の精選をはじめ、出題教科・科目の在り方の検討が必要。</p> <p data-bbox="353 331 1151 456">活用力を問う問題の充実、グレード別の成績提供、複数回実施、実施時期の見直しの指摘。</p> <p data-bbox="353 483 1151 608">センター試験の見直しに当たっては、高校教育への影響に留意することが必要。</p>	<p data-bbox="1189 180 2047 528">国は、大学教育を受けるために必要な能力の判定のための新たな試験(達成度テスト(発展レベル)(仮称))を導入し、各大学の判断で利用可能とする。高等学校教育への影響等を考慮しつつ、試験として課す教科・科目を勘案し、複数回挑戦を可能とすることや、外国語、職業分野等の外部検定試験の活用を検討する。同テストの運営については、大学入試センター等が有するノウハウ、利点を活かしつつ、達成度テスト(基礎レベル)(仮称)と相互に連携して一体的に行うようにする。</p> <p data-bbox="1189 560 2047 871">達成度テスト(発展レベル)(仮称)は、その結果をレベルに応じて段階別に示すことや、各大学において多面的な入学者選抜を実施する際の基礎資格として利用することなど、知識偏重の1点刻みの選抜から脱却できるよう利用の仕方を工夫する。将来的には、試験問題データを集積しCBT方式で実施することや、言語運用能力、数理論理力・分析力、問題解決能力等を測る問題の開発も検討する。</p> <p data-bbox="1189 903 2047 1142">以上の方針の下、達成度テスト(発展レベル)(仮称)の具体的な実施方法(教科・科目や出題内容等)や実施体制、実施時期、名称、制度面・財政面の整備等について、高等学校における教育活動に配慮しつつ、関係者の意見も踏まえ、中央教育審議会等において専門的・実務的に検討されることを期待する。</p>

項目	これまでの高大接続特別部会での主な意見	教育再生実行会議第四次提言
個別大学の 入学者選抜 の改善	(1) 総合力を見る大学入学者選抜への転換(入学志願者の多様な能力・適性等の評価の推進)	
	大学が多様化し機能別分化が求められる中で、大学入学者選抜の在り方についても、機能や類型に応じた検討が必要。	大学入学者選抜は、各大学のアドミッションポリシーに基づき、能力・意欲・適性や活動歴を多面的・総合的に評価・判定するものに転換する。大学は、これからの時代の潮流や社会の在り方を展望して、養成する人材像を明確化し、教育を再構築する。そして、それを踏まえたアドミッションポリシーを具体化し、オープンキャンパス等の機会を積極的に活用するなどして、大学入学後の教育プログラムとともに示す。
	諸外国のように、共通試験の活用により、各大学の個別試験では意欲や体験等も評価するとともに、個別学力試験に係る労力を大学教育の改善に注ぐことが必要。	
	大学入学者選抜に求められる絶対的な公平性・公正性の在り方について見直しが必要。	各大学が求める学力水準の達成度の判定には、各大学のアドミッションポリシーに基づき、達成度テスト(発展レベル)(仮称)の積極的な活用が図られるようにする。その際、利用する教科・科目やその重点の置き方を柔軟にするなど弾力的な活用を促す。各大学が個別に行う学力検査については、知識偏重の試験にならないよう積極的に改善を図る。国は、TOEFL等の語学検定試験やジュニアマイスター顕彰制度、職業分野の資格検定試験等も学力水準の達成度の判定と同等に扱われるよう大学の取組を促す。
	多様な能力・適性等を多面的にきめ細かく評価する観点から外部試験等の活用が必要。	
	グローバル人材育成の観点からTOEFL等の活用が必要。	
	体験活動やボランティア活動等も含めた受験生の様々な学習活動歴の評価が必要。	
外部試験等の活用にあたっては、アドミッション・ポリシーとの整合性が必要。		

項目	これまでの高大接続特別部会での主な意見	教育再生実行会議第四次提言
個別大学の 入学者選抜 の改善	<p data-bbox="360 204 1153 308">思考力や表現力、学習意欲等を丁寧に評価し具体的に測る方法の開発が必要。</p> <p data-bbox="360 355 1153 491">より丁寧な大学入学者選抜を行うためには、各大学の大学入学者選抜実施体制の整備や業務の効率化のための仕組み等が必要。</p>	<p data-bbox="1198 204 2040 579">各大学は、学力水準の達成度の判定を行うとともに、面接（意見発表、集団討論等）、論文、高等学校の推薦書、生徒が能動的・主体的に取り組んだ多様な活動（生徒会活動、部活動、インターンシップ、ボランティア、海外留学、文化・芸術活動やスポーツ活動、大学や地域と連携した活動等）、大学入学後の学修計画案を評価するなど、アドミッションポリシーに基づき、多様な方法による入学者選抜を実施し、これらの丁寧な選抜による入学者割合の大幅な増加を図る。その際、企業人など学外の人材による面接を加えることなども検討する。</p> <p data-bbox="1198 635 2040 770">大学は、入学者選抜において国際バカロレア資格及びその成績の積極的な活用を図る。国は、そのために必要な支援を行うとともに、各大学の判断による活用を促進する。</p> <p data-bbox="1198 826 2040 930">大学は、社会人、留学生、障害者等の受入れや飛び入学等による多様な学生の受入れが進むよう入学者選抜の工夫を図る。</p> <p data-bbox="1198 986 2040 1249">国は、メリハリある財政支援により、以上の取組を行う大学を積極的に支援する。国及び大学は、大学入学者選抜の改革について、その成果を検証し、継続的な改善に取り組む。公務員の採用においては、特に平成14年度以降、人物評価の重視に向けた見直しが行われてきており、引き続き能力・適性等の多面的・総合的な評価による多様な人材の採用が行われることが期待される。</p>

項目	これまでの高大接続特別部会での主な意見	教育再生実行会議第四次提言
個別大学の 入学者選抜 の改善	<p>(2) 推薦・AO入試の改善</p> <hr/> <div data-bbox="360 325 1160 427" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>推薦・AO入試については多様化が進展しており、ある程度の類型ごとの対策が必要。</p> </div> <div data-bbox="360 456 1160 558" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大学教育への円滑な接続の観点から、推薦・AO入試における基礎的な学力把握の取組の充実が必要。</p> </div> <div data-bbox="360 587 1160 743" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>高校で行われた評価結果の高校、大学間の共有のほか、ポートフォリオの活用等による受験者の具体的な学修履歴の把握・評価が必要。</p> </div>	<div data-bbox="1198 325 2049 587" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>推薦入試やAO入試における基礎学力の判定に際しては、高等学校における学習の達成度を評価するものとして、達成度テスト(基礎レベル)(仮称)の結果の活用も可能とし、国は、各大学の判断による活用を促進する。また、推薦入試やAO入試の選抜及び結果発表について、高等学校教育への影響を考慮した適切な時期に行われるよう促す。</p> </div>

項目	これまでの高大接続特別部会での主な意見	教育再生実行会議第四次提言
高大連携の強化		<p data-bbox="1187 183 2051 422">国、地方公共団体、大学及び高等学校は、高等学校関係者と大学関係者の間で互いの教育目標や教育内容、方法等についての相互理解を図るため、様々な協議を行うとともに、教員の交流を深めるなど、その機会の拡大を図る。また、外国語教育などにおいて、高等学校より前の段階からの連携の強化にも取り組む。</p> <p data-bbox="1187 454 2051 790">国、地方公共団体、大学及び高等学校は、高校生を対象とした大学レベルの教育機会の提供(大学教員や社会人が高等学校に向向いて行う授業や大学の授業公開、アドバンスプレースメントの実施等)について、ICT等も活用しつつ推進する。大学は、こうした学習成果を大学入学者選抜や大学での単位認定にも反映する。特に、スーパーサイエンスハイスクールやスーパーグローバルハイスクール等の高等学校において、高大連携プログラムの導入を大幅に促進する。国は、こうした取組を積極的に支援する。</p> <p data-bbox="1187 821 2051 1029">高等学校段階の内容の補習を大学において行う必要性が減少するよう、各大学が入学者に求める学力について高等学校へ情報提供を行うことや、高等学校と大学の協力により大学入学前の準備教育を実施することなど、高大連携を充実させる。</p> <p data-bbox="1187 1061 2051 1300">高等学校卒業後の進路をより柔軟にするため、短期大学、専門学校から4年制大学への編入学や専門高校等から大学への進学機会の拡大を図る。国は、高等学校専攻科修了者について、高等教育としての質保証の仕組みを確保した上で大学への編入学の途を開く。</p>